

コロナ禍において各地域・団体で工夫している取り組み等

| 委員氏名 | 取り組み内容 |
|-----------------------------------|---|
| <p>北区社会福祉協議会 会長 小玉 始</p> | <p>コロナ禍において、外出自粛に始まり、地域活動の中止・縮小等の続く状況の中、「人と話さない、イライラが増える、外出が減り閉じこもりがち、困りごとの相談ができない、体力の低下、社会的孤立、生活実態の把握がしにくい、活動者（ボランティア）の士気の低下」など地域住民への影響は大きい。人と人との繋がりを切らさないように、また、つながりを絶やさないために、今後新しい生活様式に移行していくことと併せて、地域活動もコロナに対応した取り組みが求められる。</p> |
| <p>北区民生委員児童委員協議会 会長 吉川 郁夫</p> | <p>都市化により戸建住宅が減少し高層マンション等、集合住宅が増え、住民同士のコミュニケーションが希薄になる現状。また、少子高齢化が進み支援や見守りが必要な方も多くなってきている。感染が拡大している現状下、見守りや支援等を実施する方法に苦慮している。 濃厚接触を避けるため、訪問する場合は玄関先にて安否確認や電話にて対応を行うが、昨今の電話による詐欺等の関係で十分な活動を行えない状況である。</p> |
| <p>北区地域振興会 会長 岩岸 敏雄</p> | <p>コロナ禍で取り組みができていない現状にあり、外出も控えるようになり、住民同士のコミュニケーションも少なくなっている。秋口より、会館に取りに来ていただく形式の配食サービスの実施を検討している。また、10月より百歳体操を再開するが、DVDをかけっぱなしにして、好きな時間に来られるようにするなど、密を避けた取り組みを実施する。 住民同士の繋がりが希薄にならないよう取り組みが必要であるが苦慮している。</p> |
| <p>北区地域女性団体協議会 会長 友田 幸子</p> | <p>北区女性会の取り組みとして、総会は3密を避けるため書面審議で決議を行った。また、会議は3密を避けるための対策を行って開催している。</p> |
| <p>大阪北区歯科医師会 会長 大塚 俊裕</p> | <p>理事会等の会議、講演会等をすべてwebで行っている。</p> |
| <p>大阪市北区薬剤師会 会長 坂東 俊完</p> | <p>大阪府薬剤師会から、マスク、消毒薬等消耗品の配給を行った。各薬局は投薬カウンターでの飛沫感染予防対策、患者様の動線の工夫等、3密を避けることに重点を置いて営業している。 間違った情報、不確実な情報に対して、大阪市北区薬剤師会の見解をホームページに掲載した。</p> |